

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132062	事務事業名	大田原自然の家管理運営事業			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	おおむね30歳以下の青少年とその家族	事業の目的(意図)	経験豊富な職員や職員を支えるボランティアの指導のもと体験、活動することで、青少年の健全な育成に寄与することができる。
事業の内容(手段)	大田原自然の家を設置し、集団宿泊訓練、野外活動、自然体験活動等を通じて心身ともに健全な青少年を育成する。利用者の安全を確保し、円滑な利用に努めるとともに、ボランティア等を活用し、効果的、効率的な管理運営を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	利用者数	年間のべ利用者数	人	目標値	10,000.0	10,000.0	10,000.0
実績値				10,175.0	10,498.0		
達成度(%)				101.8%	105.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	34,663	35,177	35,879	33,083
うち一財		千円	34,007	34,570	35,268	32,467	32,467
(決算額)	直接事業費	千円	34,649	35,365		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	34,085	34,770			
	正職員人件費	千円	961	2,222		人員体制の変更等に 伴う指定管理料の減額	
	人工数	人	0.13	0.30	0.70		
	支出コスト	千円	決) 35,610	決) 37,587			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	S57大田原自然の家開所 H5委託先変更 (財)徳山青年館→(財)徳山市ふるさと振興財団 H17指定管理者指定(財)周南市ふるさと振興財団 H24.3県立光青年の家事業廃止 H26~3年間、基本協定締結	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 老朽化や土砂災害警戒地域に位置していることなど、安全面での不安が大きく、急傾斜地や施設の改修には多大の費用が必要となる。
	評価	C A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	年間のべ利用者数は、4年連続で10,000人を超えている。しかし、安全面での不安が大きいことから、平成28年度中に今後の方向性を示すこととしている。
	事務事業の方向性	青少年の健全育成や地域リーダーの育成の場として欠くことのできない施設である。しかし、安全面での不安が大きいことから、指定管理期間の最終年である平成28年度中に今後の方向性を示す。	評価責任者コメント	大田原の地の利を活かした体験活動プログラムは評価できる。また、青少年教育やリーダー育成の面からも貴重な施設である。しかし、安全面の課題を抱えており、今年度中に様々な場合を想定し、方向性を示すべく取り組まれない。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
指定管理者の職員体制等の変更により、指定管理料を減額した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	大田原自然の家管理運営事業	利用者の安全の確保と円滑な利用を推進するとともに、ボランティアを活用し、効率的及び効果的にその管理運営を行う。	様々な設備を活用し、主催事業、体験活動メニューを実施。	35,365		0.30	
②				可			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	35005	事務事業名	成人式開催事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	・今年度20歳を迎える新成人 ・実行委員会に参加する青少年	事業の目的 (意図)	成人式の企画、運営を青少年主体の実行委員会で行い、主体的に行動する青少年リーダーの育成、発掘を進める。
事業の内容 (手段)	・新成人の新しい門出を祝福、激励するとともに、法的にも大人として認められた権利及び責任等に対する自覚を促す。 ・青少年により組織された実行委員会を立ち上げ、企画、運営を自主的に行うことにより、次代のリーダー育成に寄与する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度				
					成人式出席率	成人式への出席率	%	目標値	70.0	70.0	70.0
								実績値	74.1	75.4	
								達成度(%)	105.9%	107.7%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	直接事業費	千円	1,883	1,680	1,771	1,724	1,771
	(予算額) うち一財	千円	1,883	1,680	1,771	1,724	1,771
	直接事業費	千円	1,310	1,303		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	(決算額) うち一財	千円	1,310	1,303			
	正職員人件費	千円	3,328	4,147			
	人工数	人	0.45	0.56	0.50		
	支出コスト	千円	決) 4,638	決) 5,450			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	・実行委員会方式により成人式を企画、運営している。 ・20歳を迎える新成人を祝福、激励するとともに、大人として認められた権利及び責任等に対する自覚を促すことを目的に開催しているが、近年は、成人式のあり方が問われてきている。	課題・問題点	■ 妥当性    □ 有効性    □ 効率性 実行委員会や多くのボランティアの手によって実施している事業であるが、成人式に携わった人同士の繋がりを別の形で生かせるような仕組みづくりが必要である。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	実行委員会組織の充実が求められるとともに、実行委員会委員が主体的に活躍できるように成人式の内容についても検討していく。 また、運営に係る外部委託の可能性も検討していく必要がある。	評価責任者コメント	成人式のあり様は、社会総がかりの学校教育の成果が現れている。成人式を企画運営する青少年には、挑戦する者だけが得られる学びの場になっており、今後さらに実行委員会が主体となった企画運営を検討されたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など) 式典と実行委員会企画の2部構成を想定。手話通訳等の報償金を増額するとともに、賞賜金(記念品)を減額した。	備考
---	----

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	成人式開催事業	新成人を祝福、激励し、大人としての自覚を促すほか、青少年リーダーの育成、発掘に寄与する。	・記念式典 ・その他企画	1,303		0.56	
②				否			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	33011	事務事業名	少年の主張大会事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市内の小、中学生 市民	事業の目的 (意図)	青少年に対する理解を深め、学校・家庭・地域が一体となって青少年の健全育成の推進に資する。
事業の内容 (手段)	・中学生が、学校生活や日常生活を通じて考えていること、同世代や大人に訴えたいこと等について意見を発表する。 ・小、中学生を対象に、「青少年健全育成及び青少年非行防止」をテーマとした「文字デザイン」、「標語」、「4コマコミック」を募集し、表彰する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	作品提出数	4部門の作品提出数		点	目標値	3,000.0	3,000.0
実績値					1,336.0	1,798.0	
達成度(%)					44.5%	59.9%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	140	160	160	152
うち一財		千円	140	160	160	152	160
(決算額)	直接事業費	千円	120	100		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	120	100			
	正職員人件費	千円	2,292	2,666			
	人工数	人	0.31	0.36	0.40		
	支出コスト	千円	決) 2,412	決) 2,766			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	S62少年の主張コンクール徳山大会の開催(市、市教委、社明運動周南実施委員会主催) H17周南市青少年育成市民会議を主催者に追加 H22周南保護区保護司会を主催者に追加 H22県大会においてポスター、4コマコミック、標語部門の中止	課題・問題点	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 新年度始めの時期から募集開始となり、学校行事と重複するなど応募作品数が伸び悩んでいる。募集開始時期や学校への周知の方法等検討し、応募作品を増やすための対策が必要。大会の市民への周知の方法も課題。	
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	応募作品数の増加については、学校への周知方法を改善しながら行っており、徐々に成果が現れており、今後も増加を見込んでいる。
	事務事業の方向性	・本市の生涯学習拠点である「学び・交流プラザ」完成により、会場を変更し、幅広い市民の来場を見込む。 ・各学校への募集案内を早めるとともに学校長会議等の機会を利用し多くの児童、生徒の参加を促す。 ・市民が青少年の意識に触れ、理解を深める絶好の機会であることから、積極的な周知を図る。	評価責任者コメント	社会総がかりで青少年の健全育成に取り組むことが大切である。そのために、学校、家庭、地域で少年の主張が話題となるよう、市民、関係者や関係団体への働きかけが重要と考える。	

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など) より多くの生徒に作文を発表してもらうため、開催時間を延長する。これにより、手話通訳及び要約筆記への報償金は増額とするが、アトラクションの廃止分を減額する。	備考
--	----

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	少年の主張大会開催事業	広く市民が青少年の意識に触れることで青少年に対する理解を深める。 ・少年の主張の部は、市内の中学生が対象 ・文字デザイン、標語、4コマコミックの部は、市内の小、中学生が対象 ・優秀作品は、大会において発表及び掲示し、表彰する。	100 否	0.36			
②							
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	33017	事務事業名	青少年団体等活動助成事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	青少年教育団体	事業の目的 (意図)	青少年の健全育成や青少年リーダーの育成を行っている団体の活動を助成することにより、団体の拡充と育成を図る。
事業の内容 (手段)	補助金を交付し、青少年団体活動が停滞することなく継続的な活動ができるよう助言、指導を行う。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度				
					会員数、参加数	団体における会員数、参加数	人	目標値	8,500.0	8,500.0	8,500.0
								実績値	7,334.0	7,220.0	
								達成度(%)	86.3%	84.9%	

事業費	項目		単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	2,252	2,252	2,252	2,088	2,252
		うち一財	千円	2,252	2,252	2,252	2,088	2,252
	(決算額)	直接事業費	千円	2,010	2,248		対28年度増減理由	対29年度増減理由
		うち一財	千円	2,010	2,248			
		正職員人件費	千円	887	815			
	人工数	人	0.12	0.11	0.25			
	支出コスト	千円	決) 2,897	決) 3,063				

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H22周南ロボコン交付金(企画課から事務移管) 事業開始時の補助金の算定基礎は不明であるが、過去に定率減額、消費税率の改定に伴う増額等の変動がある。 ・H24各団体一律4%減 H26わんぱく船中止(台風)		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 補助を継続する中で、当初の補助額から徐々に減額をしている状況である。将来的に自主財源等で活動ができるように意識づけを引き続き行うとともに、団体育成のための継続的支援が必要である。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	補助金を交付する意義を団体に周知するとともに、団体活動が停滞しないよう継続的な活動に向けた助言、指導を引き続き行う。		評価責任者コメント	各補助事業の公益性を評価した上で、各団体の主体性を尊重しつつ、事業の公益目的がよりよく達成されるよう必要な助言・指導に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
・1団体の活動休止に伴い、補助金額を減額する。 ・各団体の事業内容については、引き続き精査する。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	青少年団体等活動助成事業	青少年の健全育成や青少年リーダーの育成を行っている団体に活動助成を行うことにより、団体の活動の拡充と育成を図る。	青少年団体等に対する活動助成事業	2,248		0.11	
				否			
②							
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	33020	事務事業名	世界ジャンボリー歓迎交流事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	国内外のスカウト 市民	事業の目的 (意図)	世界スカウトジャンボリーを通じて、周南市の情報を国内外に発信する。 語学ボランティアなど、市内の児童、生徒がスカウトとの交流の場に参画することにより、国内外の文化に触れ国際的な見識を高めリーダーの育成に資する。
事業の内容 (手段)	国内外のスカウトが周南市を訪れ、学校訪問や地域との交流を図る地域プログラムを開催する。 この機会を活用し、国内外に周南市の情報を発信するとともに、様々な内容でスカウトをおもてなしする。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	地域プログラム参加者数	地域との交流を図る地域プログラムの関わった市民等の数	人	目標値	0.0	500.0	0.0
			実績値	0.0	520.0		
			達成度(%)		104.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	0	4,568	0	0
うち一財		千円	0	790	0	0	0
(決算額)	直接事業費	千円	0	3,295		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	0	616			
	正職員人件費	千円	0	3,110			
	人工数	人	0.00	0.42	0.00		
	支出コスト	千円	決) 0	決) 6,405			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H25プレイベントとして、日本ジャンボリーを開催。 H27 7/28～8/8まで、山口市阿知須さら浜を中心に世界スカウトジャンボリーを開催。 周南市には、3日間(7/31、8/3、8/5)約2,000人の国内外スカウトが訪問。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 プレイベント開催時に、語学ボランティア数の不足が課題として挙げられたが、今回は約70人の語学ボランティアの協力が得られた。
	評価	D A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	本事業は、27年度をもって終了した全県型のイベント事業である。 今後は、同一の事業取り組みは予定されていないが、様々なプログラム内容や関わった人的資源は、様々な事業で活用していく。	評価責任者コメント	今後、同一の事業取り組みは予定されていないが、市を挙げてスカウトをもてなした人材を様々な事業等で活用されたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	世界ジャンボリー歓迎交流事業	周南市の情報を国内外に発信する。 スカウト訪問を契機に、世界の文化に触れ、国際的な見識を高めリーダーの育成に資する。	周南市に3日間、約2,000人の国内外のスカウトが訪れ、学校等との交流や施設見学等地域プログラムを実施する。	3,295 否	0.42	0.25	
②							
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	31007	事務事業名	青少年育成協働ネットワーク推進事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市民	事業の目的 (意図)	行政が、市民と協働で行う事業の企画調整を行うとともに、青少年育成に取り組む団体が連携することで、青少年健全育成の原動力となる「地域力」「市民力」を高め、市民主体で取り組む青少年健全育成活動の推進を図る。
事業の内容 (手段)	青少年育成団体が構成する「周南市青少年育成市民会議」及び学校・家庭・地域と連携し、次の事業等を実施する。 ①「地域のおじさん・おばさん運動」の実践 ②青少年健全育成に関する事業の開催 ③各地域において実施している青少年健全育成活動		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	賛助会費収入額	1口1,000円の賛助会費収入	円	目標値	120,000.0	120,000.0	120,000.0
			実績値	93,000.0	88,000.0		
			達成度(%)	77.5%	73.3%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	2,940	2,939	2,915	2,681
うち一財		千円	2,940	2,939	2,915	2,681	2,681
(決算額)	直接事業費	千円	2,940	2,894		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	2,940	2,894			
	正職員人件費	千円	0	3,036			
	人工数	人	0.60	0.41	0.40		
	支出コスト	千円	決) 2,940	決) 5,930			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H27こども家庭課から生涯学習課に事務移管。市民会議の活動メンバーが固定化されており、新規メンバーの開拓が必要。自立した組織の体制づくりに向けての今後のあり方や支援の方法を検討していく時期にきている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 市民会議の認知度がまだ低いので、機会を通じて市民会議の活動等を積極的に発信していく必要がある。また市全体を対象に、市民会議で独自に取り組む新たな事業を検討する必要がある。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	自立した組織の体制づくりを徐々に進めている。
	事務事業の方向性	全事業費に対する補助金等の割合が高い状況であり、自主財源の確保に向け、工夫を凝らした取組みを行う。	評価責任者コメント	青少年健全育成は、社会総がかりで取り組むべきであり、協働で進めて行く必要がある。青少年育成市民会議は、市民団体、企業、行政等で構成する団体である。自立した組織運営に向け支援を継続するとともに、組織のPRにも積極的に取り組まれない。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
・活動費補助金を1割減額した。 ・小学校数の減に伴い、安心安全交付金を減額した	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	青少年育成協働ネットワーク推進事業	各種団体が構成する市民会議が行う「あいさつ運動」などの活動により、地域ネットワークの強化を図る。	周南市青少年育成市民会議への適正な補助金の交付	2,250	可	0.10	
②	周南市青少年育成市民会議活動支援事業	周南市青少年育成市民会議の活動を支援し、地域で子供を見守り育てる活動を推進する。	市民会議の全体会や各分会へ参加し、市民と協働で実施する事業の企画、調整から実施に至るまでのコーディネートを行う。	可		0.21	
③	子どもの安心・安全推進事業	市民会議が子供を見守るために行う地域安全活動を推進し、子供が安心、安全に暮らせる地域づくりを一層推進する。	小学校PTAが地域と連携して行う子供の安全教育や地域での見守り体制の整備などの事業に対し、市民会議を通じて小学校PTAに交付金を交付する。	644	否	0.10	
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	31023	事務事業名	青少年育成センター運営事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100302	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)青少年を取り巻く有害環境への対応			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	市民	事業の目的(意図)	地域の校外補導組織等との連携による、定期的な環境浄化活動や補導活動を実施することにより、青少年の非行防止や健全育成を図る。
事業の内容(手段)	警察の少年相談員、地域の校外補導組織等の関係機関との連携により、次の事業等を実施する。 ①街頭補導活動 ②白ポストの設置による有害図書類の回収等の環境浄化活動		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	補導活動日数(合同)	地区別に行う合同補導活動の日数	日	目標値	45.0	45.0	45.0
実績値				24.0	24.0		
達成度(%)				53.3%	53.3%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	872	983	912	772
うち一財		千円	872	983	912	772	772
(決算額)	直接事業費	千円	614	590		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	614	590			
	正職員人件費	千円	0	2,444			
	人工数	人	0.34	0.33	0.40		
	支出コスト	千円	決) 614	決) 3,034			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H27こども家庭課から生涯学習課に事務移管。青少年指導員は、地域、学校の連携した取組みを行っている。H23、24は47人、H25、26は36人、H27は34人の青少年指導員を委嘱。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 青少年指導員の固定化が進んでおり、新規指導員の確保が年々難しくなっている。関心をもって活動に取り組めるよう方策が必要。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	警察や、校外補導組織等の関係を強化し、青少年の非行化防止、環境浄化活動に一層取り組む。
	事務事業の方向性	引き続き、地域における青少年指導員の適正化や新たな人材確保のための取組みを実施する。警察、校外補導組織等関係機関との連携を図り、青少年の非行化の防止、環境浄化活動に取り組む。	評価責任者コメント	平成27年度から青少年育成センターを教育委員会が所管することとなった。青少年教育との連携を一層強化されたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
青少年指導員数の減少に伴い報酬を減額した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	青少年育成センター運営事業	青少年の補導活動を総合的に推進し、青少年の非行防止と環境浄化活動を通じ、青少年の健全育成を図る。	補導活動を行うため、青少年指導員を委嘱する。運営委員会や指導員連絡会議を開催し、情報交換等を行うとともに、街頭補導、環境浄化活動を行う。	540	0.23		
				否			
②	周南広域校外補導連絡協議会事業	周南圏内の行政、警察、児相などで組織し、情報交換や合同活動等校外補導体制を充実、強化し、児童生徒の健全育成を図る。	連絡協議会や理事会を開催し、情報交換等を行う。合同の街頭啓発キャンペーンを行う。	50	0.10		
				否			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	17038	事務事業名	社会教育振興一般事務費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200101	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)生涯学習推進体制の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市民 生涯学習環境	事業の目的 (意図)	市民の自主的、継続的な学習活動を支援し、学んだ成果をまちづくりに生かすための生涯学習環境の整備・充実に取り組む等、社会教育行政全般に係る円滑な事業実施を図る。
事業の内容 (手段)	社会教育全般に係る会議資料等の作成や情報収集業務、庁内連絡事務等を行う。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					目標値	実績値	達成度(%)
社会教育主事講習受講者	社会教育主事資格を取得するための講習受講者		人	26年度	1.0	1.0	1.0
				27年度	1.0	1.0	
				28年度	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	直接事業費	千円	1,405	1,139	1,126	1,132	1,126
(予算額)	うち一財	千円	1,405	1,139	1,126	1,132	1,126
(決算額)	直接事業費	千円	887	807		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	887	807			
	正職員人件費	千円	0	3,703			
	人工数	人	0.41	0.50	0.10		
	支出コスト	千円	決) 887	決) 4,510			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	専門知識をもった社会教育主事の県からの派遣がなくなる中で、市独自で社会教育主事を育成していくことが求められている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 県からの社会教育主事派遣がなくなる中で、専門知識をもった社会教育主事を増員し、地域人材を育成する必要がある。また、学習した成果をまちづくりに生かす仕組みづくりを構築するため、庁内連携を推進する必要がある。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	県教委からの派遣社会教育主事の派遣が難しくなる中、市職員の講習受講が途絶えることのないよう、人材の育成に努めていくことが必要である。
	事務事業の方向性	社会教育主事講習の受講は、職員の資質向上の点からも継続的、計画的に進めて行く。	評価責任者コメント	引き続き、専門知識をもった社会教育主事講習に派遣し、人材育成を図っていくことが重要である。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
引き続き、社会教育行政全般に係る円滑な事業実施に取り組む。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	社会教育振興一般事務事業	社会教育振興のため、事務の円滑化を図る。	社会教育全般に係る会議資料等の作成、情報収集、庁内連絡事務等を行う。	807 否		0.50	
②							
③							
④							
⑤							



平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	135005	事務事業名	社会教育委員会費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	200101	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)生涯学習推進体制の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	市民 社会教育委員	事業の目的(意図)	社会教育委員の資質向上を図り、社会教育委員の意見を本市の社会教育行政に反映し、社会教育事業の推進を目指す。
事業の内容(手段)	社会教育法第15条に基づき設置し、社会教育法第17条の職務(調査研究、会議、研修等)を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	社会教育委員会(全体)開催回数	社会教育委員会(全体)開催回数		回	目標値	4.0	4.0
実績値					3.0	4.0	
達成度(%)					75.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	302	356	302	302
うち一財		千円	302	356	302	302	302
(決算額)	直接事業費	千円	201	242		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	201	242			
	正職員人件費	千円	0	2,814			
	人工数	人	0.39	0.38	0.19		
	支出コスト	千円	決) 201	決) 3,056			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	社会教育委員数 H15 20人→H27 12人		課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 社会教育という大きな枠組みの中で、社会教育委員の考え方も多様であることから、委員間の共通認識がもてるよう工夫が必要。
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	社会教育委員制度を、積極的に活用することで、住民の意向や地域の要望等が反映されるような仕組みをさらに充実させる必要がある。
	事務事業の方向性	学校・家庭・地域の連携を進めている中、今後、社会教育委員の役割はますます重要になる。社会教育行政に住民の意向や地域の要望等が反映されるように、意見を取り入れるための仕組みが社会教育委員制度であるため、社会教育委員会会議の活性化を進める。		評価責任者コメント	社会教育委員制度は住民参画型の行政の仕組みを端的に表している制度であり、社会教育委員の資質向上及び会議の活性化を図っていく。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
社会教育行政に住民の意向や地域の要望等が反映されるように、社会教育委員会会議の活性化を進める。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	社会教育委員会費	教育委員会に提言し、又は教育委員会からの諮問に答申すること。	年4回会議を開催し、教育委員会に対する提言、答申等を行う。	242		0.38	
②				否			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	135008	事務事業名	派遣社会教育指導主事負担金			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200101	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)生涯学習推進体制の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市民 社会教育関係者	事業の目的 (意図)	社会教育関係者に対する指導、助言や社会教育事業の企画、立案を行うことにより、本市の社会教育行政を推進する。
事業の内容 (手段)	山口県教育委員会から、社会教育主事を招聘し、本市の社会教育の充実に資する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	地域協育ネット立上げ学校数	中学校区を一まとまりとした子供たちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するための仕組み。	校	目標値	4.0	5.0	7.0
実績値				4.0	5.0		
達成度(%)				100.0%	100.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	2,009	8,739	0	0
うち一財		千円	2,009	8,739	0	0	0
(決算額)	直接事業費	千円	2,009	7,862		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	2,009	7,862			
	正職員人件費	千円	0	74			
	人工数	人	0.01	0.01	0.00		
	支出コスト	千円	決) 2,009	決) 7,936			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	H23まで 各総合出張所に1人、人権教育課1人、計4人 H24 生涯学習課2人、人権教育課1人 H25・26 生涯学習課1人、人権教育課1人 H27 生涯学習課1人(自治法派遣)、人権教育課1人	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 県の方針で派遣社会教育主事が削減されている。 H27は、派遣社会教育主事要綱による派遣が打ち切りとなったことにより、地方自治法第252条の17の規定による派遣を県に要請した。
	評価	D A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	県教委からの派遣社会教育主事の派遣が難しくなる中、市職員の人材育成に努めていくことが必要である。
	事務事業の方向性	県教委から社会教育主事の派遣が難しくなる中、市としても職員の社会教育主事講習の受講を継続し、人材の育成を進める。	評価責任者コメント	派遣社会教育主事は、地域と行政と学校をつなぐ重要な役割を担っているが、H28年度からは打ち切りとなったため、社会教育主事講習に職員を受講させ、人材の育成に努めていくことが急務である。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	派遣社会教育主事負担金	社会教育に関する専門的な知識で、社会教育を行う者に指導、助言をその資質向上を図る。また、各種事業を実施することにより、市民がいつでもどこでも学習することができ、その成果を社会に活かせるようにする。	社会教育行政の充実に資する必要があるため県教委から社会教育主事1人を招聘。地方自治法派遣により対応。	7,862		0.01	
②				否			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	32024	事務事業名	学校・家庭・地域の連携協力推進事業費		
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	100301	分野	1教育・子育て	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	3子供の健全育成			補助・単独の別	補助
	推進施策	(1)健全育成活動推進のための連携の強化			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	幼、小、中学生 実施校区内の地域住民等	事業の目的 (意図)	学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制の構築。			
事業の内容 (手段)	地域協育ネットワーク事業、家庭教育支援事業、放課後子供教室事業等の取組みを通して、学校・家庭・地域が連携して子供を育てる環境づくりを推進する。					

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					放課後子供教室参加児童数	各教室に参加した児童ののべ 人数	人
				実績値	28,364.0	23,113.0	
				達成度(%)	135.1%	73.6%	

事業 費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	14,155	12,542	11,972	12,586
うち一財		千円	4,719	8,361	3,991	4,226	3,991
(決算額)	直接事業費	千円	11,857	10,396		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	4,189	3,472			
	正職員人件費	千円	0	9,256			
	人工数	人	1.15	1.25	0.75		
	支出コスト	千円	決) 11,857	決) 19,652			

【評価】 Check

課題・ 問題・ 評価等	事業開始 からの 推移	H26から、国庫補助事業である「学校支援地域本部事業」「家庭教育支援事業」「放課後子供教室推進事業」と単市事業の「子どもサポートプラン推進事業」を統合した。	課題・ 問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 それぞれの事業を充実させるための核となるのは人材である。地域住民の中から様々な立場で活躍する人が必要である。しかし、一人が多くの肩書を持ち、限られた人での活動にとどまっていることがある。高齢化も進み、世代交代も含め、新たな人材の確保が必要である。併せて人材育成も課題である。	
	評価	B	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と 結びつか ない場合 の理由	各地域のニーズに対応した「放課後子供教室」の在り方を検討し、新教室の開設や回数の増加を見込んでいる。
	事務事業 の方向性	コミュニティスクールと地域協育ネットの要素を併せ持った「やまぐち型地域連携教育」が平成27年度からスタートした。この取組みをどのように周知し、具体的取組みを実施していくか検討していく。 放課後子供教室においては、各教室におけるプログラムの充実を図る。	評価 責任者 コメント	H28年1月に、「次世代の学校・地域」創生プランが策定され、子どもたちの豊かで健やかな成長のために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たして、連携しながら社会全体で子どもたちと関わっていくとされたことから、実現に向けて周南市も取り組んでいく。	

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後子供教室の市内全小学校区設置を目指し、報償金、委託料を増額する。</li> <li>放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な実施を進める。</li> <li>中学校区における統括コーディネーターの設置を進める。</li> <li>家庭教育支援の拡充を図る。</li> </ul>	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	「やまぐち型地域連携教育」における「統括コーディネーター」を配置の取組み	小・中学校に設置されたコミュニティスクールと地域協育ネット事業の要素を合わせ持った「やまぐち型地域連携教育」を推進していく中で、中学校区内で学校と地域を繋げる「統括コーディネーター」を配置し、学校が必要としている支援と地域とのマッチングを行い、学校・家庭・地域が連携した教育支援活動を展開することで、地域で子供を育む機運を高めるとともに、地域コミュニティの充実を図る。	統括コーディネーターの活動としては、学校と地域の連絡・調整、地域の協力者の発掘、取組み等の情報発信など学校・家庭・地域の連携を深める様々な活動があげられる。	344		0.30	
				否			
②	家庭教育支援事業	子育てに関する悩みを相談できずストレスを抱える親が増加する中、地域へ講師を派遣することで子育てに関する悩みの解消をはじめ、家庭教育のあり方や子供への接し方等を再認識してもらう。	市内3地区(熊毛地区・鹿野地区・新南陽地区)で活動中の家庭教育支援チームが主催する子育てに関する講座開催の支援。また、幼稚園、小・中学校の協力のもと、就学時等の機会に子育て講座を開催する。	732		0.50	
				否			
③	放課後子供教室事業	放課後や週末等に公民館や小学校の余裕教室等を活用し、体験活動や地域との交流等を実施することにより、社会性や規範意識、自主性、創造性等の豊かな人間性を育む。子供と大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実を図る。	・放課後子供教室の立上げ、開催 ・コーディネーターによる教室運営体制の確立	9,320		0.45	
				可			

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	133005	事務事業名	社会教育団体助成事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200102	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)学んだ成果をまちづくりに生かす環境の充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	社会教育団体	事業の目的 (意図)	活動を通して、国際的な理解を深めること、「小さな親切」の啓発、花いっぱい事業の推進、青少年健全育成の推進、女性の社会的地位の向上を図る等、社会教育団体の自主的、継続的な活動を支援する。
事業の内容 (手段)	補助対象と位置付けられた社会教育関係団体(徳山ユネスコ協会、周南をよくする会、徳山花いっぱいの会、周南市PTA連合会、周南市連合婦人会)の活動に対して補助金を交付する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	会員数	社会教育関係団体の会員数	人	目標値	16,000.0	16,000.0	16,000.0
			実績値	13,975.0	13,675.0		
			達成度(%)	87.3%	85.5%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	1,557	1,557	1,557	1,266
うち一財		千円	1,557	1,557	1,557	1,266	1,336
(決算額)	直接事業費	千円	1,557	1,557		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	1,557	1,557			
	正職員人件費	千円	0	1,111			
	人工数	人	0.10	0.15	0.17		
	支出コスト	千円	決) 1,557	決) 2,668			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成18年度から20年度まで、生涯学習課と社会教育委員で構成する補助金審査会を実施し、対象団体の運営、実施状況をチェック。 交付基準を満たさない団体への指導や同一目的団体の補助金の一本化等を実施した結果、平成18年度20団体が、平成24年度5団体になった。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 団体会員の高齢化や固定化が進んでいるため、会員増加や若い世代からの協力、サポートが必要となる。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	補助金の公益性を踏まえ、実績に基づく効果等を検証するとともに、団体活動が停滞しないよう継続的な活動に向けた助言、指導を引き続き行う。	評価責任者コメント	各補助事業の公益性を評価した上で、各団体の主体性を尊重しつつ、事業の公益目的がよりよく達成されるよう必要な助言・指導に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
・引き続き、市民の自主的・継続的な学習活動を支援するための環境の充実を図る。 ・活動団体の減少により補助金を減額した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	社会教育団体助成事業	補助金を交付することにより、団体の自主的・主体的な活動の推進を図る。	補助対象と位置付けられた社会教育関係団体(徳山ユネスコ協会、周南をよくする会、徳山花いっぱいの会、周南市PTA連合会、周南市連合婦人会)の活動に対して補助金を交付する。	1,557		0.15	
②				否			
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	293005	事務事業名	花いっぱい推進事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200102	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)学んだ成果をまちづくりに生かす環境の充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	育苗グループ、花壇関係者 地域、学校花壇	事業の目的 (意図)	育苗グループや花壇関係者の生きがいづくりや、地域花壇等によるまちの潤いづくりとともに、学んだ成果をまちづくりに生かす実践につなげる。
事業の内容 (手段)	市内11の育苗グループに花の種子を配布し、育った苗を公民館を通して地域、学校花壇に配布する。 地域・職場や学校で展開されている花いっぱい運動の成果と、更なる推進のため、優秀な花壇を表彰する。 公民館を通じて、花いっぱい運動のため、花づくり講習会を開催する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	花壇コンクール参加団体数	花壇コンクール参加団体数	団体	目標値	50.0	50.0	50.0
				実績値	27.0	31.0	
				達成度(%)	54.0%	62.0%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	直接事業費	千円	3,459	3,392	3,392	3,392	3,392
	(予算額) うち一財	千円	3,459	3,392	3,392	892	3,392
	直接事業費	千円	3,258	3,293		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	(決算額) うち一財	千円	3,258	3,293			
	正職員人件費	千円	0	2,222			
	人工数	人	0.32	0.30	0.46		
	支出コスト	千円	決) 3,258	決) 5,515			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成23年度に開催された山口国体をピークに花壇コンクール応募数や地域花壇数は減少している。育苗グループや地域花壇の世話人の高齢化も進み、担い手が不足している。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 ・花壇コンクールへの応募団体の減少 ・育苗グループの運営 ・新しい地域花壇の世話人の発掘
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない理由	花壇コンクールの参加団体数の増加については、賞の種類を増やしたりするなど改善しながら行っており、今後も増加を見込んでいる。
	事務事業の方向性	第3期周南市生涯学習推進プランに沿って、生涯学習の拠点としての公民館等を利用し、地域の団体等と連携、協力して花いっぱい運動の推進に取り組む。	評価責任者コメント	第3期周南市生涯学習推進プランに沿って、花いっぱい運動の推進に取り組む。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
第3期周南市生涯学習推進プランに沿って、引き続き、効率的・効果的な事業の推進に努める。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	花種子・苗配布等業務	育苗グループに育てられた花苗を地域花壇等に配布し、地域住民の心を豊かにするとともに、明るく住みよい地域づくりに繋げる。	生涯学習として、育苗グループに花種子を渡して育苗してもらい、地域花壇、学校花壇に花苗を提供する。	2,553	0.15		
				否			
②	花壇コンクール開催業務	学校と一般の部で順位をつけ、優秀団体は「ゆめ風車まつり」で表彰する。	丹精込めて世話をしてきた地域花壇、学校花壇に対し、日頃の成果の発表の場として、コンクールを開催する。	147	0.10		
				否			
③	花づくり講習会	配布を受けた花苗等の維持管理のための講習会を開催する。	公民館主催で、花づくり、花壇づくりの講習会を開催する	47	0.02		
				否			
④	フラワーボックス及び円形花壇維持管理業務	花による潤いのある地域づくりへの啓発	学び・交流プラザ東側歩道に設置したフラワーボックスと山口銀行徳山支店前の維持管理を業務委託する。	546	0.03		
				可			
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132061	事務事業名	学び・交流プラザ整備事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	補助
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市民	事業の目的 (意図)	施設の完成・供用開始により、生涯学習の拠点、地域コミュニティの推進や市民活動の推進など、本市のまちづくりの気運が高まり、人とまちの活性化に寄与することが期待できる。
事業の内容 (手段)	今後、高度化、多様化する市民ニーズに対応するため、生涯学習を推進する拠点施設「周南市学び・交流プラザ」を整備する。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	事業費における決算累計額の割合	決算累計額/事業費の計	千円	目標値	3,931,635.0	3,931,635.0	0.0
実績値				3,874,246.0	3,931,635.0		
達成度(%)				98.5%	100.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	2,988,757	78,153	0	0
うち一財		千円	140,457	4,053	0	0	0
(決算額)	直接事業費	千円	2,993,545	45,172		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	241,887	4,562			
	正職員人件費	千円	0	3,332			
	人工数	人	0.68	0.45	0.00		
	支出コスト	千円	決) 2,993,545	決) 48,504			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	本体の建設工事が完了し、平成27年度から供用を開始した。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 整備事業は一応完了したが、社会資本整備総合交付金を使っていることもあり、整備上の効果が得られているか評価できなかった項目を平成28年度分析する必要がある。
	評価	D A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	本体工事等完成し、施設の供用を開始した。管理運営体制の強化や維持管理コストを含めた施設の適正な管理が求められる。	評価責任者コメント	学び・交流プラザ整備事業は完了したので、今後は生涯学習拠点施設としてのソフト事業の充実にシフトチェンジしていく。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	本体工事関係	新南陽図書館を解体し、新たに東駐車場を整備する。	・新南陽図書館解体工事 ・東駐車場整備工事	45,069	否	0.10	
②	管理運営体制検討	周南市学び・交流プラザの効率的な管理運営体制の構築	管理運営を一部業務委託 ※学び・交流プラザ管理運営事業費の中で委託料計上	0	否	0.15	
③	国庫交付金事務	都市再生整備計画の進捗管理を適切に実施する	都市再生整備計画における国費の申請等の進捗管理 ・国費申請、請求事務 ・中国ブロック研究会出席	103	否	0.20	
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132017	事務事業名	公民館管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200101	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)生涯学習推進体制の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	地域住民	事業の目的 (意図)	生涯学習・社会教育・コミュニティ活動の推進拠点である公民館の管理・運営体制の充実が図られる
事業の内容 (手段)	公民館31館3分館が、快適に使用でき、拠点施設機能が発揮できるよう効果的な管理運営を行う (別事業となる類似館6館を除く)		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	利用人数	実績値/目標値	人	目標値	472,000.0	472,000.0	472,000.0
実績値				707,834.0	870,543.0		
達成度(%)				150.0%	184.4%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	92,790	96,209	104,347	106,036
うち一財		千円	90,269	93,718	101,868	102,882	102,882
(決算額)	直接事業費	千円	96,667	95,522		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	94,391	92,717		公民館(中央地区及び熊毛)のパート職員増、修繕料の増	
	正職員人件費	千円	11,093	14,218			
	人工数	人	1.50	1.92	1.89		
	支出コスト	千円	決) 107,760	決) 109,740			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	各公民館を拠点として、地域住民の自主的・継続的な学習活動及び地域づくり活動が行われているが、社会情勢の変化によるニーズの多様化が生じている。また施設の老朽化が進行している。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 地域の生涯学習の拠点及び地域づくり活動の拠点として重要度を増しており、地域の人材発掘・育成への一層の貢献が求められている。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	公民館主事のスキルアップをサポートするなど、市民がより利用しやすい施設となるよう、各公民館の連携を強化する必要がある。
	事務事業の方向性	少子高齢化等を原因とする地域の活力低下を防ぎ、さらに地域コミュニティの核となる施設としての機能を充実させるため、施設のあり方そのものの検討を進める	評価責任者コメント	生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
経常経費の節減に努める一方、各公民館利用者へのサービス向上のため事務賃金等及び修繕料を増額した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	公民館の管理・運営	各公民館の利用件数増	各公民館の利用件数が大道理公民館分が減ったにもかかわらず全体ではやや増加した	72,068		1.24	1.00
				否			
②	公民館施設の維持・管理	各公民館の計画的な維持・補修を行う	遠石公民館給水管修繕のほか、菊川公民館加見分館屋上防水修繕、中須公民館瓦修繕等を行った	4,173		0.30	0.00
				否			
③	地域参画型公民館事業	中央7館に加え榑浜公民館を地域参画型とする	27年10月の新榑浜公民館供用開始にあわせ、地域参画型とした	19,280		0.38	0.00
				可			
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132029	事務事業名	公民館施設改修事業費		
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	各公民館	事業の目的 (意図)	生涯学習・社会教育・コミュニティ活動の推進拠点である公民館の安心・安全 や利便性の向上が図られる
事業の内容 (手段)	第2次耐震診断を行う(戸田、周陽、大河内)		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					目標値	空調改修等	第2次耐震診断(3館)
改修等の実施	達成項目/目標項目	%		実績値	空調改修等	第2次耐震診断(3館)	
				達成度(%)	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	18,364	7,158	0	
うち一財		千円	17,039	6,051	0		
(決算額)	直接事業費	千円	17,231	6,474		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	16,864	5,435			
	正職員人件費	千円	1,479	148			
	人工数	人	0.20	0.02	0.00		
	支出コスト	千円	決) 18,710	決) 6,622			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	各公民館の7割が建設後30年を超えており、安心・安全を確保するために計画的な耐震診断を行っている 平成28年度から公民館整備事業と統合する	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 各公民館で老朽化が進行しており、耐震診断を計画的に進める過程で耐震性の低い施設が多いことが明らかとなっているため、計画的な施設整備を行うことが必要である
	評価	D A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	27年度に計画した耐震診断は実施したが、耐震改修はこれからであり、整備事業と統合し計画的に行っていく必要がある。
	事務事業の方向性	施設の更新及び改修整備等を計画的に行うため、28年度中に公民館等の施設整備計画を策定する	評価責任者コメント	施設・設備の改修について、補助制度を活用し効果的に実施できた。公民館整備事業へ統合する。公民館等の整備計画を策定し、計画的・効果的な整備に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)
平成27年度で事業終了。

備考
平成28年度予算から「公民館整備事業費」とし、大向公民館の耐震診断及び今宿公民館駐車場整備を実施している。

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	公民館施設の改修	戸田、周陽、大河内の各公民館の第2次耐震診断を行う	戸田、周陽、大河内の各公民館の第2次耐震診断を行った	6,474 可		0.02	0.00
②							
③							
④							
⑤							



平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132030	事務事業名	榑浜公民館整備事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等整備事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	榑浜公民館	事業の目的 (意図)	老朽化がめだつ榑浜公民館・支所の建替えにより、地区住民の自治力・地域力の向上を図る
事業の内容 (手段)	榑浜公民館の建設整備		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	整備等の実施	達成項目/目標項目	%	目標値	榑浜公民館設計	榑浜公民館建設	-
				実績値	榑浜公民館設計	榑浜公民館建設	
				達成度(%)	100.0%	100.0%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	直接事業費	千円	152,873	395,827	0		
(予算額)	うち一財	千円	39,973	98,527	0		
直接事業費	千円	131,843	367,115		対28年度増減理由	対29年度増減理由	
(決算額)	うち一財	千円	33,843	51,915			
	正職員人件費	千円	1,479	3,628			
	人工数	人	0.20	0.49	0.00		
	支出コスト	千円	決) 133,322	決) 370,743			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	榑浜地区住民の生涯学習活動や地域活動の拠点である榑浜公民館の建替えが具体化するなかで、榑浜まちづくり協議会が発足し、施設の設計段階から地域と協議を進めている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性
	評価	D A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	施設整備を完了し、供用を開始した。	評価責任者コメント	今後は、生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、地域と意志疎通を図り地域参画型施設としての運用に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
平成27年度で事業終了。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	公民館施設の整備	榑浜公民館の整備	榑浜公民館の整備を完了し、供用を開始した	367,115 可		0.49	0.00
②							
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132044	事務事業名	三丘徳修館管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	地域住民	事業の目的 (意図)	生涯学習の推進やコミュニティ協議会等の各種団体が開催する行事を通じて、地域のコミュニティ活動の拠点施設として機能を充実させ、住民によるふるさとづくりを目指す
事業の内容 (手段)	三丘徳修館を管理・運営、公民館講座を開催し、地域住民の地域活動、学習活動を支援		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	利用件数	実績値/目標値	件	目標値	1,100	1,100	1,300
			実績値	1,060	1,580		
			達成度(%)	96.4%	143.6%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	4,628	3,596	3,589	3,704
うち一財		千円	4,558	3,526	3,513	3,606	3,513
(決算額)	直接事業費	千円	4,702	4,242		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	4,626	4,143			
	正職員人件費	千円	7,395	7,405			
	人工数	人	1.00	1.00	1.00		
	支出コスト	千円	決) 12,097	決) 11,647			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	近年定期利用団体数は横ばいで推移しているものの、コミュニティ協議会等の非定期団体の利用が増加し、利用件数は増加している。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 平成33年で開館30年となり、今後維持管理コストも上昇していくことが予想される。改修の優先順位を付け、効率的に大型の修繕等を行う必要がある。(外壁改修、上水道の引き込み等)
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	市民がより利用しやすい施設となるよう、さらに努める必要がある。
	事務事業の方向性	定期利用団体の大幅な増加は厳しい面もあるため、コミュニティ協議会等の事業と連動し、公民館をきめ細かく利用できる事業等を積極的に実施し利用件数の増加を図っていく	評価責任者コメント	生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
効率的な管理運営のため、他館不用品の活用などにより経費節減に努めた。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	コミュニティ協議会等の事務局運営	地域での自主運営を目指す(事務局の自立1団体)	自主運営に向けた指導を行う	0	否	0.50	0.10
②	施設管理運営事業(貸館業務)	三丘地区の生涯学習拠点としての利用促進を図る(利用件数1100件)	各会議等で公民館利用についての周知を再度行う	4,192	否	0.10	0.80
③	公民館講座運営事業	三丘地区の生涯学習拠点として、利用促進を図る(公民館講座年間15回目標)	高齢者向け講座だけでなく、青少年等向け講座を開催する	50	否	0.40	0.10
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132047	事務事業名	鶴いこいの里管理運営事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	周南市を含む近隣住民	事業の目的 (意図)	鶴いこいの里交流センターを管理・運営し、地区住民の地域活動、スポーツ活動を支援。
事業の内容 (手段)	鶴いこいの里交流センターの管理・運営 公民館講座・スポーツ大会・イベントの開催 社会教育団体の育成		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	鶴いこいの里利用者数	実績値/目標値	人	目標値	30,000.0	45,000.0	45,000.0
			実績値	42,348.0	39,779.0		
			達成度(%)	141.2%	88.4%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	10,881	12,457	10,830	11,129
うち一財		千円	9,715	11,445	9,973	10,365	10,000
(決算額)	直接事業費	千円	11,025	12,380		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	10,170	11,719			
	正職員人件費	千円	9,909	9,182			
	人工数	人	1.34	1.24	1.24		
	支出コスト	千円	決) 20,934	決) 21,562			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	地域内の少子高齢化、人口減少が進んでいる。施設の老朽化が進み、修繕を計画的に行う必要がある。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 今後の施設運営コストの増加が課題である。各団体の事務局を多く引き受けており、自主運営できるよう促す必要がある。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	使用者の増加を図る施策を実施し、生涯学習の拠点施設としての存在意義、利用価値を高めていく。	評価責任者コメント	生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、複合施設としての特性を活かした管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
効率的な管理運営のため、上水使用量の節減による上下水道使用料の節減に努めた。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	鶴いこいの里施設維持管理	使用者が安心安全に施設を使用できるよう、計画的に修繕を行なう。	施設の維持、軽微な修繕、管理委託契約、貸館業務	4,794 可	0.48	0.00	
②	社会教育団体等の支援	各団体が独立して運営できるよう支援する。	団体運営に係る事務指導等を行なった。	3,793 否	0.38	0.00	
③	公民館講座・スポーツ大会・イベントの開催	各団体が独立して運営できるよう支援する。	団体運営に係る事務指導等を行なった。	3,793 否	0.38	0.00	
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132050	事務事業名	新南陽ふれあいセンター管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	地域住民および新南陽ふれあいセンター利用者	事業の目的 (意図)	研修・レクリエーション・コミュニティ活動・文化スポーツ・趣味の活動の場を提供することにより、市民の交流が活発となり、生涯学習の推進と地域の活性化を目標とする。
事業の内容 (手段)	○新南陽ふれあいセンターの施設管理・運営 ○多目的ホールを含む貸館・福川公民館・福川図書館・トレーニングセンター等の複合施設として運営		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	図書館、トレセン、プールを除いた利用者数	実績値/目標値	人	目標値	132,000.0	80,000.0	100,000.0
			実績値	163,252.0	102,138.0		
			達成度(%)	123.7%	127.7%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	47,418	48,654	44,297	44,706
うち一財		千円	41,618	43,438	39,081	39,488	39,100
(決算額)	直接事業費	千円	47,893	45,756		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	41,853	40,655			
	正職員人件費	千円	17,748	18,513			
	人工数	人	2.40	2.50	2.00		
	支出コスト	千円	決) 65,641	決) 64,269			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成2年11月の開館以来、地域コミュニティづくり、生涯学習の拠点としての機能を生かし、住民生活の向上を目指すとともに健康づくり、またふれあいの場として有効利用されるとともに、周南市の拠点施設の役割も担っている。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 本館は、公民館や図書館等、福川地域の拠点であり、施設利用者にとって利便性の高い複合施設だが、建設後26年を経過した大規模施設であり、設備とともに備品の改修費用が懸念される。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	複合施設の特性を活かし、市民がより利用しやすい施設となるよう、さらに努める必要がある。
	事務事業の方向性	当センターは公民館や図書館等、福川地域の活動拠点であり、生涯学習やふれあいの場として、利用者にとって利便性の高い複合施設である。しかし建設後26年を経過し、設備・備品の改修が必要となるため、類似施設である学び交流プラザとの役割分担を明確にしていかなければならない。	評価責任者コメント	生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、複合施設としての特性を活かした管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
館の運営管理を徹底し、光熱水費(電気、上下水道)の節減に努めた。また利用者の高齢化等に配慮してトイレの洋式化を進める。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	新南陽ふれあいセンター管理運営事業費	市民の自主的、継続的な学習活動や地域コミュニティの活動の年間利用者数(目標値:80,000人)	研修・レクリエーション・コミュニティ活動・文化スポーツ等の場を提供する。	45,756 否	2.50	7.00	
②							
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132053	事務事業名	勝間ふれあいセンター管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	地域住民	事業の目的(意図)	生涯学習の推進や、コミュニティ協議会等の各種団体が開催する行事を通じて、地域のコミュニティ活動の拠点施設として機能を充実させ、住民によるふるさとづくりを目指す。
事業の内容(手段)	勝間ふれあいセンター学級・・・公民館主導の講座開催 放課後子ども教室(おもしろ科学クラブ)・・・勝間校区を主とした小学生対象の科学講座 かつまふれあい祭り・・・勝間地区コミュニティ、小学校、地域住民と連携したお祭り、学校と地域の連携による児童教育の促進 大どんど焼き・・・勝間地区コミュニティ、小学校、地域住民と連携したお祭り その他団体等への支援		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	施設利用者数	実績値/目標値	人	目標値	20,000.0	20,000.0	25,000.0
			実績値	30,206.0	32,811.0		
			達成度(%)	151.0%	164.1%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	5,419	4,746	4,727	4,632
うち一財		千円	5,182	4,499	4,480	4,385	4,480
(決算額)	直接事業費	千円	5,314	4,430		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	5,231	4,356			
	正職員人件費	千円	7,395	7,405			
	人工数	人	1.00	1.00	1.00		
	支出コスト	千円	決) 12,709	決) 11,835			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	地域内の高齢化が急速に進んでいるが、館の利用は増加している。定期利用団体数が減少しているが、既存団体への参加者が増加傾向にある。他の地域との交流や他市住民との交流の場へと変化していることから状況にあった利用を考えるべきである。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 施設においては電灯安定器の老朽により今後修繕費の増加が考えられる。コーディネーターの育成については、講座等を開催することにより各地域住民の協力が必要である。コミュニティ団体の担い手の育成と自立化は今後も支援が必要である。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	市民がより利用しやすい施設となるよう、さらに努める必要がある。
	事務事業の方向性	定期利用団体の数が減少しているが、既存の団体への参加者が増加傾向にある。地域全体が高齢化傾向にあるが地域の拠点としての役割・存在意義を再確認し、さらなる利用者の促進と学びの場としての役割を高めていく必要がある。各種団体の担い手の育成が必要であり事業の進め方や運営のマニュアル作りや自由性を促し、活動しやすい環境づくりが必要と考える。	評価責任者コメント	生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
利用者が増加傾向にあるが、効率的な管理運営のため経常経費の節減に努めるとともに利用者の協力等も求めていく。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	勝間ふれあいセンター管理運営事業	適正な館運営と維持管理を行う。生涯学習の促進	館の利用マナーの啓発・掲示	4,430		0.50	1.50
				否			
②	公民館講座運営事務	生涯学習を通じてコーディネーターの育成や地域の人と人との関わりを持ってもらう	年10回講座を開催し、地域住民の教育、学術、文化に関する学習の場を提供。また、各種団体との連携により担い手の育成を行った。	0		0.30	0.20
				可			
③	コミュニティ協議会等の事務局等事務	各団体が独立して運営できるよう支援する	コミュニティ等主催の行事活動の支援	0		0.20	0.30
				可			
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132056	事務事業名	高水ふれあいセンター管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200103	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(3)社会教育関連施設の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	周南市民	事業の目的 (意図)	高水ふれあいセンターを管理・運営し、地区住民の地域活動、学習活動を支援。
事業の内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高水ふれあいセンターの管理・運営</li> <li>・高水ふれあいセンター施設の維持・管理</li> <li>・通学合宿(高水小児童)の実施</li> <li>・高水公民館まつり・高水ふれあいフェスタ</li> </ul>		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	施設利用件数	実績値/目標値	件	目標値		500.0	500.0
実績値					251.0	402.0	
達成度(%)					50.0%	80.4%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	5,364	5,381	5,383	5,335
うち一財		千円	4,825	4,825	4,801	4,717	4,801
(決算額)	直接事業費	千円	5,654	5,324		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	5,027	4,687			
	正職員人件費	千円	2,588	2,592			
	人工数	人	0.35	0.35	0.35		
	支出コスト	千円	決) 8,242	決) 7,916			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	開館以来、地域に密着した身近な施設として、住民に親しまれている。地域の高齢化に伴い、利用者も高齢化してきており、利用者の減少が予測される。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 27年度は、地元団体の講演会が開催されたことで、利用者数の増加に繋がった。入浴館の運営については、利用状況は低コストとなっており、必要性について、検討をおこなう必要がある。	
	評価	C	A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	利用件数としては概ね目標を達成しているが、入浴館の運営について検討を要するため
	事務事業の方向性	入浴館の管理運営のあり方について検討をおこなう。	評価責任者コメント	入浴館については引き続き地元協議を進めていく必要があるが、当面は高水公民館と一体的に、生涯学習及び地域づくり活動の拠点としての価値を高めるよう、管理運営に努められたい。	

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
効率的な管理運営のため、経常経費の節減に努めた(ただし、事業費に占める光熱水費の割合が高く、使用量や単価の増減による影響が大きい)。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	施設維持管理業務	館の運営に支障をきたすことの無いよう適正な施設維持管理に努める。	館内清掃、施設維持管理にかかる業務委託、修繕業務。正常な管理運営ができた。	2,302	可	0.10	0.35
②	貸館業務	迅速かつ正確な貸館業務を運営すべく、定期的な利用者会議等の開催を通じて意見収集に努める。	施設の貸館に関する業務、利用者会議の実施。正常な館運営ができた。	0	可	0.10	0.35
③	入浴館の管理運営	施設管理において事故やレジオネラ菌の発生を防ぐ等、適正な施設運営に努める。	施設の維持管理、管理運営業務委託に関する業務、修繕業務。正常な館運営ができた。	3,022	可	0.15	0.10
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	132064	事務事業名	学び・交流プラザ管理運営事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	200101	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	1生涯学習の推進			補助・単独の別	単独
	推進施策	(1)生涯学習推進体制の整備・充実			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	周南市民に対する生涯学習推進の整備・充実	事業の目的(意図)	あらゆる世代の多様なニーズに対応し、「誰でも」「いつでも」「どこでも」学ぶことができ、また学習成果を生かすことのできる「生涯学習社会」の実現を目指す。
事業の内容(手段)	○学習情報収集、発信システムの充実…従来から取り組んでいる情報紙、ウェブページ、メールマガジンを活用した情報発信の充実 ○現代的課題解決講座の充実…成人期、高齢期における多様な学習機会の提供、郷土の伝統文化に触れる機会の充実、周南市について幅広く学ぶ学習プログラムの開発、「しゅうなん出前トーク」内容の充実、ワークショップなど参加型の学習機会の提供		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	施設利用者数	実績値/目標値	人	目標値		320,000.0	320,000.0
			実績値		342,400.0		
			達成度(%)		107.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	0	78,216	70,088	69,847
うち一財		千円	0	73,102	61,479	61,238	61,500
(決算額)	直接事業費	千円	0	52,573		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	0	44,029			
	正職員人件費	千円	0	22,215			
	人工数	人	0.00	3.00	3.00		
	支出コスト	千円	決) 0	決) 74,788			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	平成27年度から事業を開始した。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 講座参加者の地域が限定されている。主催講座開催場所を学び・交流プラザに限らず、他地域へ出ることの検討も必要である。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	講座数、内容の充実及び、宣伝広告範囲の拡充を行う。	評価責任者コメント	本市生涯学習の拠点施設としての価値を高める事業展開を進めるとともに、複合施設としての特性を活かした管理運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
27・28年度の実績に基づき光熱水費等の経常経費について精査を行い、予算の節減に努めた。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	施設管理	経常経費の削減に努める。	管理運営に係る光熱水費及び消耗品の削減に努める。	52,043 可	1.25	0.00	
①	学習情報の収集、発信	情報紙の充実、メルマガ登録者数増加(目標4,500人)	情報紙『ふあいんど』内容の充実、メルマガ購読の宣伝拡充(実績4,258人)	30 否	0.50	1.00	
①	学習機会の提供	講座開催数、受講生の増加(目標:講座受講者数1,300人)	各年代のニーズに対応した講座の開催(実績:講座受講者数1,006人)「しゅうなん出前トーク」の見直し	500 否	1.25	1.00	
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	17044	事務事業名	文化財保護一般事務費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200202	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2文化・芸術活動の振興			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)文化財の保護と活用の促進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市内の文化財	事業の目的 (意図)	指定および登録文化財を増やし、郷土の特色ある歴史や文化の伝承を図る。
事業の内容 (手段)	文化財に関する調査等を行う。市民の誇りにつながる歴史文化への理解を深める。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					目標値	実績値	達成度(%)
文化財件数	市内の国・県・市指定および登録文化財件数	件	件	26年度	105.0	106.0	106.0
				27年度	104.0	104.0	
				28年度	99.0%	98.1%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	1,642	1,642	1,823	2,171
うち一財		千円	1,572	1,572	1,753	2,101	2,229
(決算額)	直接事業費	千円	1,393	1,402		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	1,340	1,352			
	正職員人件費	千円	3,032	2,592			
	人工数	人	0.41	0.35	0.34		
	支出コスト	千円	決) 4,425	決) 3,994			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	郷土の文化・歴史を伝えるため必要な恒久的事務である。また、市民の文化財等への関心も高まっており、電話等による問い合わせも多い。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 郷土の歴史に関する専門的な問い合わせもあり、スタッフは一定の専門知識を必要とするため、継続的に業務を進める体制を構築する必要がある。また、有形文化財(建造物)や史跡の調査・整備など適切な文化財保護施策について、計画的に実施していく必要がある。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	引き続き、周南市文化財審議会に諮りながら計画的に文化財の指定・登録を進める。	評価責任者コメント	事業の継続は必要であり、市の主体性を発揮しながら、関係機関等と協議を重ね、効果的・効率的な事業運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
文化財保護体制の充実を図るため文化財審議会委員の欠員を補充した。また業務の効率化を図るため、文化財保護担当が作業を行っている港町分庁舎にパソコン2台をリースにて導入した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	文化財保護一般事務	文化財保護の周知に努め、市民の関心を高める。	問合せ対応、文化財防火デーの実施、関係団体との連絡調整	1,362	0.16	1.00	
				否			
②	文化財の調査、文化財審議会の開催	文化財審議会を開催し、文化財保護を充実させる。(目標開催回数:1回)	文化財審議会の開催(開催回数:1回)	40	0.19	0.00	
				否			
③							
④							
⑤							



平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	152007	事務事業名	文化財等管理運営事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200202	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2文化・芸術活動の振興			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)文化財の保護と活用の促進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市内の文化財	事業の目的 (意図)	文化財の保護に努めるとともに、積極的な活用を図る。また、文化財の保護意識を高める。
事業の内容 (手段)	文化財等の保護及び活用にあたり、効率的な管理運営を行う。市民の誇りにつながる歴史文化を保護し、また利用機会を提供する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					目標値	実績値	達成度(%)
山田家本屋入館者数	山口県指定文化財「山田家本屋」への入館者数	人	目標値	3,100.0	3,200.0	3,000.0	
			実績値	2,939.0	2,407.0		
			達成度(%)	94.8%	75.2%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	6,670	3,837	6,518	6,045
うち一財		千円	6,670	3,837	6,518	6,045	4,263
(決算額)	直接事業費	千円	6,813	4,204		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	6,813	4,204			
	正職員人件費	千円	2,366	2,222			
	人工数	人	0.32	0.30	0.32		
	支出コスト	千円	決) 9,179	決) 6,426			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	市民の文化財への関心は、ますます高まっており、適切な管理・整備をすすめていく必要がある。目標値については、現状を考慮したうえで見直しを行った。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 文化財等保存団体の高齢化および後継者不足と文化財の計画的な維持補修策の立案が必要である。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	「山田家本屋」の入館者数は、関連するテレビドラマ放映の影響もあり、平成26年度は増加したが、平成27年度は減少に転じた。ただし、平成23年度(1,916人)、平成24年度(1,807人)、平成25年度(2,076人)と比較すると増加傾向にある。
	事務事業の方向性	公開施設については入館者数を増加させるための有効な広報について検討をすすめる。文化財の補修・整備について計画的に実施していく。また、保存団体の高齢化が進んでおり、文化財を管理するための手法について検討をすすめる。	評価責任者コメント	事業の継続は必要であり、市の主体性を発揮しながら、関係団体等と協議を重ね、効果的・効率的な事業運営に努められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
文化財について市民への周知と施設の利用促進を目的として文化財マップ第4版を作成するほか、明治維新150年に向けた整備として説明板の設置委託料、既存説明板の修繕料を計上した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	文化財管理一般事務	文化財等を適切に管理し、市民の利用を進める。文化財等説明板の設置・修繕目標件数:4件	指定文化財等所有者からの管理相談への助言。文化財等説明板の設置・修繕件数:5件	251 否	0.15	0.00	
②	指定文化財の管理、整備	文化財を適切に管理し、整備したうえで市民への周知と利用促進を図る。山田家本屋入館者目標数:3,200人	「山田家本屋」「徳修館」等各施設の管理運営や史跡の管理整備等にかかる契約事務、支払事務。山田家本屋入館者数:2,407人	3,953 可	0.15	0.00	
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	152009	事務事業名	埋蔵文化財保護費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者 (課長)	山本 英樹	評価責任者 (部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり 総合計画・前期 基本計画における 位置づけ	施策コード	200202	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(経常的事務事業)
	基本施策	2文化・芸術活動の振興			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)文化財の保護と活用の促進			会計名	01一般会計

事業の目的 (対象)	市内の埋蔵文化財	事業の目的 (意図)	埋蔵文化財保護を進めていくとともに、郷土の特色ある歴史や文化の伝承を図る。
事業の内容 (手段)	周知の埋蔵文化財包蔵地照会に対応する。必要に応じて試掘等調査を実施する。		

【実施内容】 Do

事業 目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
					目標値	実績値	達成度(%)
試掘・立会調査件数		周知の埋蔵文化財包蔵地等で工事が行われる場合の試掘・立会調査の件数(1,000㎡を超える調査の場合、1,000㎡ごとに1件で算出)	件		10.0	11.0	12.0
					5.0	20.0	
					50.0%	181.8%	

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	4,394	4,360	4,981	6,969
うち一財		千円	3,760	3,726	4,396	6,299	5,522
(決算額)	直接事業費	千円	3,499	3,492		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	2,914	2,907		嘱託増による報酬増+1,801千円、社会保険料増+350千円、久米区画整理事業地調査終了による委託料減△259千円	
正職員人件費	千円	7,469	7,405				
人工数	人	1.01	1.00	0.91			
	支出コスト	千円	決) 10,968	決) 10,897			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	久米区画整理事業の完了に伴い、同地区での発掘・試掘調査は減少しているが、その他の地域での調査が増加傾向にある。指標については、これまで調査対象面積の大小に関わらず、1件としてきたが、よりの確な指標とするため、1,000㎡を超える大規模開発に伴う調査については、1,000㎡ごとに1件で算出することとした。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input type="checkbox"/> 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 埋蔵文化財の保護について、市の開発部局や民間業者等に必要性と手続きの周知徹底を図る必要がある。出土資料について計画的に発掘調査報告書を刊行していく必要がある。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	外的要因にスケジュールが大きく左右される点はあるが、効率的な調査と報告作成が必要である。
	事務事業の方向性	埋蔵文化財保護の周知方法や経費節減のための効率的な調査方法を工夫しながら保護活動を進める。	評価責任者コメント	事業の継続は必要であるが、実施方法やコスト等を随時見直して、効果的・効率的な事業運営に努められたい。また、整理作業終了後の出土資料の活用法について検討を進められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
開発行為に対する調査報告を迅速に完成させるため、久米垣外遺跡出土品にかかる整理作業等を行う嘱託職員を増員した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	埋蔵文化財保護一般事務	市が、民間業者等に周知して、埋蔵文化財の保護が適切に行われる。目標照会件数:350件	周知の埋蔵文化財包蔵地照会対応(404件)、県教委への報告等。	0 否		0.10	0.00
②	試掘・立会調査	市が事前調査を行い、埋蔵文化財の適切な保護が図られる。目標件数:11件	周知の埋蔵文化財包蔵地等における土木工事に伴う試掘・立会調査件数:20件	868 否		0.15	0.30
③	本発掘調査	市が発掘調査を行い、埋蔵文化財の適切な保護が図られる。	久米区画整理区域内における本発掘調査。	500 否		0.30	0.30
④	出土遺物整理	市が、出土遺物を整理して報告書を刊行し、埋蔵文化財の記録保存が図られる。報告書発行目標数:1冊	久米区画整理区域に関する発掘調査報告書作成のため必要となる遺物や遺構の計測や図面作成、原稿執筆等。「垣外遺跡発掘調査報告書」発行。	2,124 否		0.45	1.30
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	152014	事務事業名	民俗資料展示室管理運営事業費			
担当部・課名	教育部・生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	200202	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(施設等管理運営事業)
	基本施策	2文化・芸術活動の振興			補助・単独の別	単独
	推進施策	(2)文化財の保護と活用の促進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	周南市民	事業の目的(意図)	市内の文化財を保護するとともに、文化財保護の意識を高め、郷土の特色ある歴史や文化の伝承を図る。
事業の内容(手段)	民俗資料展示関連施設の効率的な管理運営を行う。市民が自らの暮らしの歴史を学ぶ機会を提供する。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	新南陽民俗資料展示室見学団体数	福川小学校内に設置する仮展示施設等の見学団体数	団体	目標値			
			実績値		8.0	9.0	
			達成度(%)				

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	2,734	3,120	2,665	2,609
うち一財		千円	2,731	3,117	2,662	2,608	3,108
(決算額)	直接事業費	千円	2,636	3,041		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	2,633	3,038			
	正職員人件費	千円	1,553	2,222			
	人工数	人	0.21	0.30	0.30		
	支出コスト	千円	決) 4,189	決) 5,263			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	新南陽民俗資料展示室については、施設の老朽化に伴い、平成27年度をもって休館した。事業目標における指標について、平成27年度までは新南陽民俗資料展示室の入館者数としてきたが、休館に伴い福川小学校内に設置した仮展示施設は、団体見学のみ受け付けることとしているため、指標を見学団体数に変更した。	課題・問題点	<input type="checkbox"/> 妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性 <input type="checkbox"/> 効率性 休館中の新南陽民俗資料展示室については、代替施設を検討する必要がある。また、新展示施設については、入館者の増加につながる展示プランの策定が必要である。
	評価	C A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	変更前の指標である新南陽民俗資料展示室の入館者数により評価した場合、目標2,200人に対する実績1,187人による。
	事務事業の方向性	新南陽・熊毛・鹿野の各施設で保管している民俗資料の現状把握、重複状況調査の結果に基づき、市内各地の資料を比較して観覧できる展示施設など、入館者の増加につながる統合プランを検討する。	評価責任者コメント	周南市の歴史や民俗を伝えていくことは必要であるが、新南陽民俗資料展示室は老朽化が進んでおり、代替施設の検討及び効果的な運営プランの検討を進められたい。併せて所蔵資料の整理を進められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
平成28年度に新南陽民俗資料展示室は老朽化のため休館し仮展示室を開設。再開に向け所蔵資料の整理を進め、管理経費を節減した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否		正職員	臨時等
①	施設の管理運営	来館者が、民俗資料展示施設を快適に利用できる。新南陽民俗資料展示室目標入館者数:2,200人	来館者への対応、問い合わせ対応、企画展の開催、施設修繕等。新南陽民俗資料展示室入館者数:1,187人	2,778 可		0.15	0.80
②	資料の調査	市が、民俗資料を調査収集し、市民に対し郷土の歴史や文化の伝承を図る。	館および他施設に収蔵されている民俗資料の調査、市民からの相談対応。	263 可		0.15	0.20
③							
④							
⑤							

平成28年度 周南市事務事業評価シート

事務事業コード	152017	事務事業名	鶴保護対策事業費			
担当部・課名	教育部 生涯学習課	評価者(課長)	山本 英樹	評価責任者(部長)	小野 卓令	

【事業概要】 Plan

第2次まちづくり総合計画・前期基本計画における位置づけ	施策コード	200202	分野	2生涯学習・人権	事業の分類	(ソフト事業)
	基本施策	2文化・芸術活動の振興			補助・単独の別	補助
	推進施策	(2)文化財の保護と活用の促進			会計名	01一般会計

事業の目的(対象)	・国指定文化財「特別天然記念物八代のツルおよびその渡来地」 ・ツルに関心のある市民	事業の目的(意図)	・「特別天然記念物八代のツルおよびその渡来地」の恒久的な保存 ・保護活動による市民の文化財保護意識の向上 (ツル渡来数 H28目標:10羽)
事業の内容(手段)	特別天然記念物保護・保存のため以下の事業を継続して行なう。 ●環境整備として、ツルのねぐら11か所および餌場整備の実施。また、安全な餌場確保を行う(観光客の侵入防止用ネットの設置)。 ●ツル渡来期間中の監視体制として、監視員を配置し、生態調査やデータの収集、観察者への注意喚起を行う。 ●より積極的なツル渡来数回復として、出水市より移送した保護ツルの放鳥により、現ツル渡来個体群への補強・補充を行う。 ●鳥類専門家および地元関係者により組織された周南市鶴保護協議会により、事業方針の検討、承認を行う。		

【実施内容】 Do

事業目標	指標名	指標説明	単位	年度	26年度	27年度	28年度
	ツル渡来数	渡来数/目標渡来数	羽	目標値	10.0	10.0	10.0
			実績値	11.0	8.0		
			達成度(%)	110.0%	80.0%		

事業費	項目	単位	26年度	27年度	28年度(予算)	29年度(予算)	30年度(見込)
	(予算額)	直接事業費	千円	21,834	19,647	19,588	21,872
うち一財		千円	6,820	7,452	8,525	8,900	8,000
(決算額)	直接事業費	千円	21,036	17,774		対28年度増減理由	対29年度増減理由
	うち一財	千円	6,613	5,579		保護ツル飼育期間の 通年化及び調査事 業に係る経費の増	
	正職員人件費	千円	15,308	14,588			
	人工数	人	2.07	1.97	1.47		
	支出コスト	千円	決) 36,344	決) 32,362			

【評価】 Check

課題・問題・評価等	事業開始からの推移	一時は4羽までツルの渡来数が減少したが、環境の改善やデコイの効率的な運用方法を検討することで、現状では2ヶ所近くまで渡来数を回復させるに至った。またより積極的なツル渡来数回復策である保護ツルの移送・放鳥事業も、中断時期はあるが継続して実施している。	課題・問題点	□ 妥当性 ■ 有効性 ■ 効率性 ツルの渡来数の回復は、気象などの自然条件に左右され、速効性のある対策事業が見出されず事業運営に苦慮している。現段階では、現行の事業を継続して効果を見ながら判断していかなければならない。
	評価	B A 目標を達成した(計画どおりに事業を進めた) B 概ね目標を達成した(実施方法等の見直しが必要) C 目標を下回る(大幅な見直しが必要) D 目標を大きく下回る(抜本的な見直し、廃止の検討)	達成度と結びつかない場合の理由	
	事務事業の方向性	これまでの越冬環境整備および渡来数実績から環境の整備内容等の見直しを今後行っていく必要がある。 ・国の進めるツル類の分散化に向けた計画策定の動きが進みつつあるため、文化庁および環境省等、国の機関との連携を強化して事業を進めていく。	評価責任者コメント	ツルの生息環境整備は現状を維持し、移送事業については国、県及び出水市との協議を続け、円滑に進められたい。

【改善】 Action

平成29年度当初予算等での改善結果(平成29年度当初予算への反映など)	備考
・ツル越冬環境整備方法の見直しにより経費節減に努め、不用設備を削除した。	

【事務事業を構成する細事業】

No.	細事業名	細事業の目標	細事業の実施内容	コスト(千円)		人工数	
				外部委託の可否	正職員	臨時等	
①	野鶴研究、資料整理、保護啓発	・ツル行動調査により適切な生息環境管理に役立てる。 ・研修の受入等によりツル保護意識の醸成に努める。	・ツル渡来期間中における調査の実施(ねぐら・餌場利用、個体識別等) ・研修の受入、シンポジウム出席(5件) ・ツル絵画コンテストの実施	7,465	0.30	1.90	
				否			
②	野鶴監視・保護ツル飼育	・監視員によるツル行動監視及び安全な餌場等の確保 ・保護ツルの飼育・放鳥による渡来数回復	・ツル渡来期間中の監視(184日間) ・八代地区外で保護されたナベヅルを受入れ、飼育・治療後放鳥(0羽)	1,663	0.43	0.88	
				否			
③	施設管理(ねぐら・保護センター等)	・環境整備(ネグラ11か所、餌場2ヶ所) ・ツル保護センター管理	・環境整備(ネグラ11か所、餌場2ヶ所) ・ツル保護センター管理(常時ツル受入可能に管理を実施)	7,711	0.41	0.05	
				否			
④	保護ツル移送	八代のナベヅル渡来数回復に向け国、県、出水市と連携し保護ツルの受入を行う。	・出水市への移送協力要請、協議 ・文化庁協議 ・環境省新越冬地形成事業への協力	825	0.28	0.00	
				否			
⑤	ツル保護一般事務	・国庫補助対象事業に係る申請、執行管理を適正に行う。 ・現状変更等の受付、許可を適切に実施する。	・国庫補助対象事業に係る申請、執行管理 ・現状変更許可申請処理(13件)	110	0.55	0.00	
				否			